

# ワークショップNO.1

## 社会福祉法人施設と地域との協働の取り組み

防災への取り組みを通じた地域における支えあいの仕組みづくり

活動報告者

平田裕二 氏

(所属: 社会福祉法人 正友会 )

多田覚 氏

(所属: まんのう町社会福祉協議会吉野支部 )

出石稔郎 氏

(所属: 特別養護老人ホーム 桃陵苑 )

地域担当者 まんのう町社会福祉協会

多度津町社会福祉協議会

日本地域福祉研究所作成

複写禁

# 参加者状況

## 1. ワークショップ会場

会場: かりん会館

アドバイザー: 社会福祉法人同愛会 理事長 菊地達美氏  
文京学院大学准教授 中島 修氏

## 2. 参加者

まんのう町社会福祉協議会関係	13名	多度津町社会福祉協議会関係	3名
県外市町村社会福祉協議会	4名	香川県社会福祉協議会	3名
まんのう町老人クラブ連合会	1名	社会福祉法人	14名
大学教員	1名	大学生	5名

# 目的

防災を切り口に、地域の関係者の

実践報告やグループワークから地

域の現状を把握し課題把握から解決へのプロセスにいたる

ワークの中から社協、福祉施設、民生委員、地区(支部)社協

自治会等が連携し日常の支えあいの仕

組み(地域包括ケアシステム)を構築す

るためのきっかけや仕掛けを考察する。



# 展開方法

3つの事例報告及び1つの事業紹介をもとに、地域及び社会福祉法人の強みや課題、施設と社協の協働の取り組み、住民と社会福祉法人一体の防災の取り組みを通し、これからの地域での社会福祉法人と住民の役割について検討を行った。



# 基調報告

## ① 「社会福祉法人改革と コミュニティソーシャルワーク」

文京学院大学 中島修 氏



## ② 「地域社会における 社会福祉法人が果たす役割とは」

(公財)日本知的障害者福祉協会 副会長  
社会福祉法人同愛会 理事長  
菊地達美 氏



## 事例報告

# 地域に開かれた社会福祉法人として ～正友会の実践から～

社会福祉法人正友会 生活相談員 平田 裕二 氏

法人理念 「社会福祉を地域とともに考え実践します」  
実践の内容

- 地域福祉推進室の立ち上げ

地域貢献活動を法人全体で進めていく

まんのう町社協との情報交換、民生委員や住民との連携の構築

- 青色防犯パトロール活動(送迎車両の活用、警察署との連携)
- 夏祭り(地域住民の参画、ボランティアとの連携、施設への理解)
- 清掃活動(地域の一員としての自覚、自治会との連携)
- 町からの委託事業

給食サービス、介護者のつどい、緊急通報体制



事例報告2

# 地域のプラットフォームづくりと支部社協活動・民生委員活動

まんのう町社会福祉協議会吉野支部 支部長 多田 覚 氏

## 実践の内容

高齢者...友愛訪問、ふれあい弁当、男性の料理教室、公民館祭り  
招待、七草がゆのつどい

子ども対象...赤ちゃん訪問

世代交流...南小6年と高齢者とのふれあい集会・会食

募金活動...公民館祭りでのヨーヨー募金

防災関係...ボランティア集会、防災ボランティア講習  
課題

災害時は協力し合って動けない人もいる。

福祉施設とつながっていない。

日ごろから訓練や情報交換が大切。



### 事例報告3

## 平成16年高潮時における桃陵苑の状況や対応、今後の課題などについて

特別養護老人ホーム 桃陵苑 生活相談員 出石稔郎 氏

### 実践の内容

- 平成16年台風の被害を受ける(豪雨と高潮による浸水被害)
- 平成17年行政、消防、社協、近隣施設等との合同防災訓練の実施
- 平成28年に向けて4階建て、防災機能を備えた施設を建築中
- 被災経験に基づき施設としての対策を考えた。

次なる災害に備えて  
地域で連携して  
動く取り組みが大切！





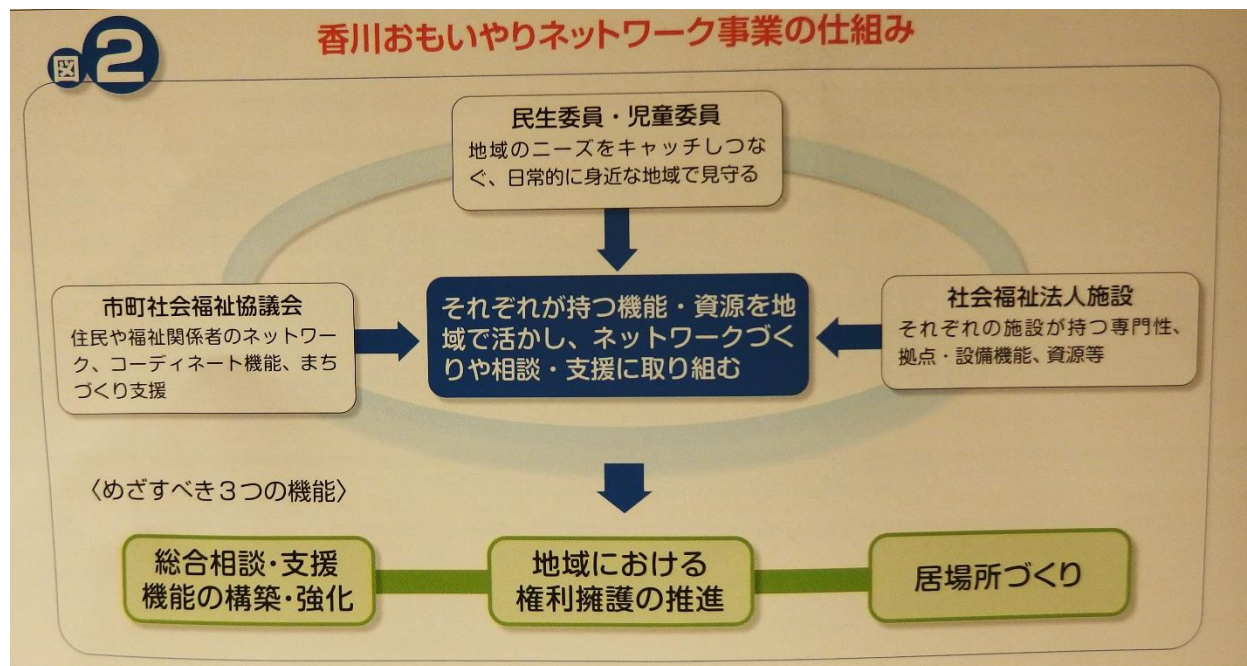
## 事業紹介

# 「香川おもいやりネットワーク事業」

香川県社会福祉協議会 事務局次長 日下直和 氏

## 事業の内容

- 制度の狭間に対し、いろいろな地域のニーズを持っている民生委員と社協、社会福祉法人が取り組む仕組み
- 専門の窓口を作り、相談をワンストップ対応することを目的とする。



# 結 果 (1)

	強み	弱み(課題)
施設	<p>専門的な対応ができる職員がいる、建物が丈夫、設備、備品等が充実している、職員がいる、資金が充実</p> <p>専門性が高い</p>	<p>認知度が低い、若い人が行きにくい、関心が低い、来てもらうことに慣れてしまっている、対象者が特定されがち、人材、連携不足、外に出ていく時間が足りない、若い人とのつながりが薄い、</p> <p>若者の接点が少ない、理解不足、職員が地域に出にくい</p>
地域	<p>人通しがつながりがある、協力的、色々な団体がある、活動が幅広い(子供から高齢者まで)、拠点である公民館に誰かがいる、民生委員が元気、防災意識の高さ、公民館を拠点に団体、情報が集まり、連携が進めやすい、多世代交流</p> <p>人とのつながり、情報、公民館が拠点</p>	<p>高齢者が多く、活発な活動ができない、入れない人が排除されがち、移動手段、関わりにくさ、活動が見えにくい、高齢化、若い人の協力が得られにくい、若い人の活動(20~40代)が薄い、資金不足、地域外との交流、施設とのつながりが弱い</p> <p>高齢化、若者の活動不足、人材不足、地域の内と外、地域外の活動不足</p>

# 結 果 (2)

- 地域、施設で弱みになっているものは取り組みの優先順位が高い
- 地域にあって、施設にないもの双方補てんできる
- 施設研修、地域の子供たちの受け入れ、福祉教育
- 男性の料理教室を施設につなげる
- 認知症カフェなどを通し、地域の人が来られる取り組み
- 防災キャンプを施設近隣で行う
- 地域の福祉課題が捉えきれていない



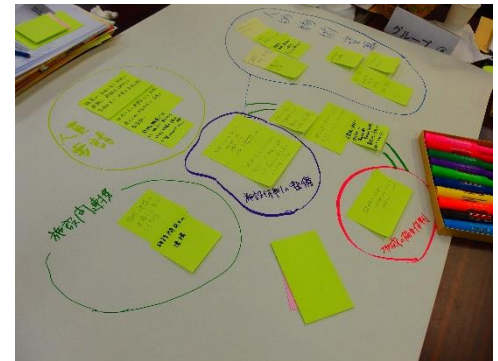
# 結果(3)

- 施設にどのようなことを依頼できるのか



施設と地域との意見交換(定期的に)

地域の課題を地域貢献のメニューに落とし込んでいく  
成熟したネットワークを作る



- 若い人たちが来ない



防災に絡めて関わりを作っていく

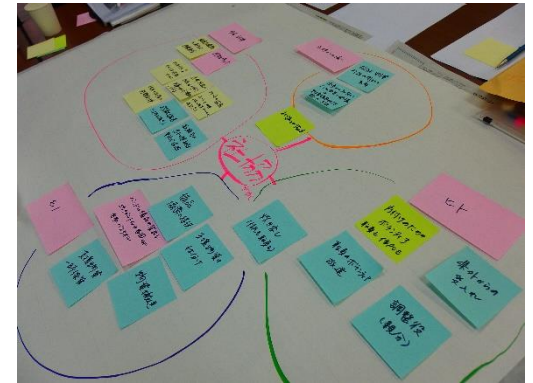
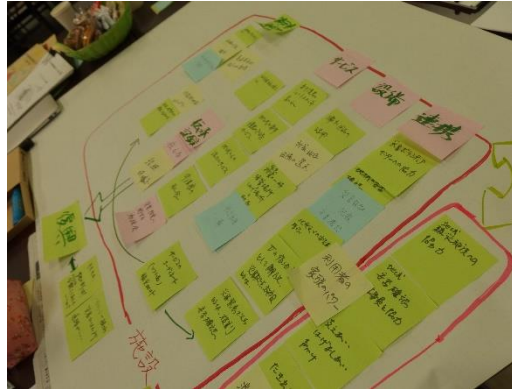
施設は防災拠点となるが、住民はわかっているのか？

施設、地域、学校等を巻き込み、地域防災訓練の実施



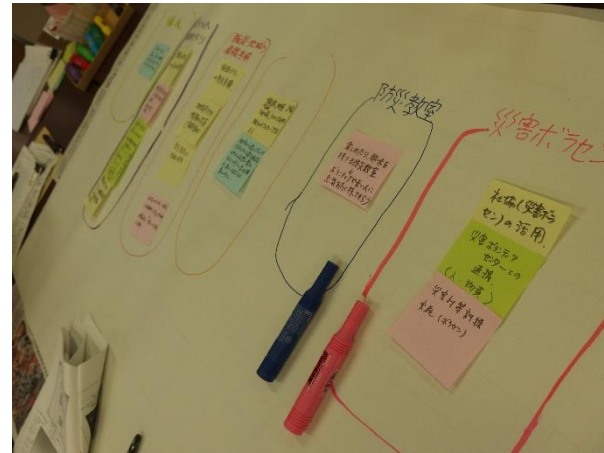
正友会の地域福祉推進室は他の機関と連携をもっている。

# 考 察



- 平時からの備え  
災害時に必要な機能、連携体制の構築、社協との協定
- 啓発、訓練  
避難訓練を一緒に行う、情報発信をして住民が気軽に行きやすい環境
- ヒト、モノ  
県外からの受け入れ、調整役
- 仲間づくりが大切  
顔合わせの場・地域との連携（地域のことを知る）  
自治会長や民生委員とつながる際は社協に出向くことが大切

# 考察(2)



- 大それたことを考えるのではなく、小さなことから積み上げる  
ex) ケアマネの情報収集能力における専門性を災害時に避難所でいかす
- 普段から専門性を職員が意識しておく
- 施設のなかで使えるものや人材を知っておき、社協がつなぎ役になり、住民のニーズとつなげておく  
ex) 車両は常に燃料を満タンにしておき、社協から有事の際連絡が来た際に対応できるようにしておく
- 普段の取り組みを柔軟に行うことが災害時につながる

# 結論・今後の展望(1)

- ・施設と地域がどのように協働できるか  
地域からもつなげる場が見える



- ・災害をきっかけに利用者をどう守るのか  
職員だけでは難しい、地域とつながれば新たな対応が見えるのでは？  
実践の積み重ねが思いやりネットワークにつながる

# 結論・今後の展望(2)

- 職員それぞれの持っている力を事業所が明確にする
- 職員の力を引き出していく
- 施設でやれることを職員に出してもらい、それを具体化していく
- 街づくりに活かされるようにしていく
- 仕組みがなくなっても成り立つようにしていく







まんのう町  
みなさまの



協議会の  
たします。



ご清聴、ありがとうございました。

